

映画を通して フランスの歴史を知る



カルチャーカフェ

言語、宗教、文化、芸術、etc.

第4回

まとめてかじってみよう！

日 時 2月26日 (土)
PM.7:00~9:30

講 師 関西学院大学フランス語講師
大嶋 優氏 (翻訳家)
参加費 1,000円 (ドリンク付)

映画『さよなら子供たち』

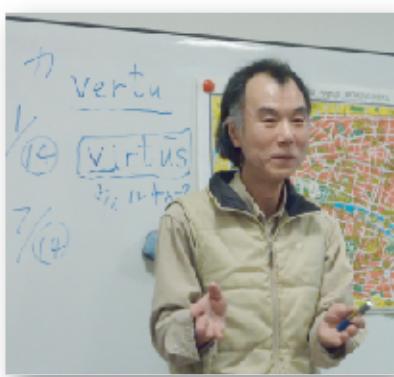
フランス革命から第二次世界大戦へ一足飛び。

今回は、『死刑台のエレベーター』で知られるルイ・マル監督の自伝的映画、『さよなら子供たち』を取り上げます。

無性に込み上げてくるこの悲しみは何でしょう？銃撃戦があるわけでもなく、殺戮場面があるわけでもない。淡々と流れる疎開先の力トーリック系寄宿学校での日常生活。突然ゲシュタポがやってくる。芽生え始めたジュリアンとボネの友情は無残にも引き裂かれる。戦争という不条理によって……

ラストは次のような言葉(声)で締め括られています。

「ボネ、ネギュス、デュプレはアウシュヴィツで死んだ。ジャン神父はアウトハウゼンで死亡。……40年余りの歳月が過ぎたが、わたしは死ぬまでこの1月の朝を忘れない」この1月の朝とは1944年1月の朝のことです。タイトルにもなっている「さよなら子供たち」は、ユダヤ人をかくまったくでドイツ軍に連行されるジャン神父が、彼を見送る子供たちに向かって告げる別れの言葉。



講師プロフィール

おおしま まさる 1950年 兵庫県生まれ
フランスの出版社グリュンド社のもとで渉外、翻訳を担当。現在は関西学院大学、甲南大学で非常勤講師としてフランス語を教える。

趣味： 映画鑑賞

会場・お問合せ先

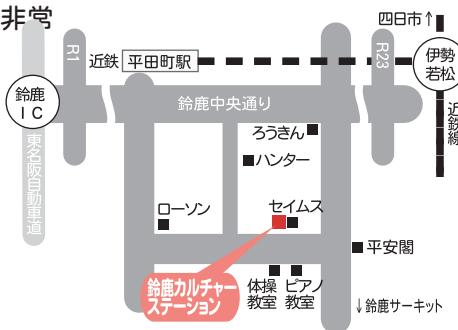
SCS鈴鹿カルチャーステーション

鈴鹿市阿古曽町14-28

TEL&FAX 059-389-6603

HP <http://www.scs-3.org>

E-mail scsoffice@scs-3.org



アクセス 近鉄「平田町」駅より徒歩15分・駐車場あり